城下まちづくり通信

第14号

12月13日 上田市役所　上田市長への要望を行いました

城下まちづくり未来会議では、昨年12月13日土屋陽一上田市長に令和５年度の要望書を提出しました。

要望にあたっては、城下地区環境建設協議会と城下自治会連合会が中核となり、当地区の安全で住みやすい環境づくりに向け協議を重ね、防災関連対策の課題を項目として取りまとめました。

当日は、城下自治連、朝日ヶ丘48未来会議、城下まちづくり未来会議の役員、宮下市議会議員の12名が市役所を訪問、市からは土屋市長、佐藤都市建設部長、堀内市民協働・参画推進課長に出席いただきました。

◆要望項目

1　**城下地区雨水排水対策事業の早期完了について**（継続項目）
2　**朝日ヶ丘地区旧長池導水路の維持管理について**（新規項目）
3　**県道上田塩川線（金窓寺川関連）の防災対策について**（新規項目）

◆要望内容

1　城下地区雨水排水対策事業の早期完了について

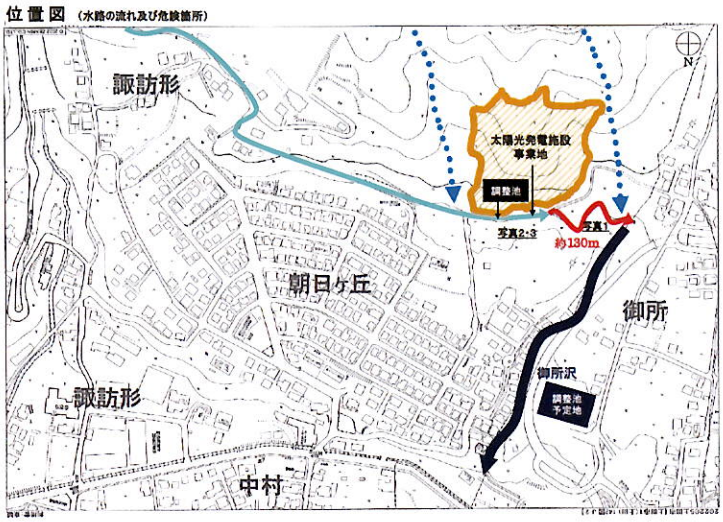
令和３年度から対策工事が行われている。継続事業の早期の完了を要望。

宮下市議からは、御所沢川調整池は、令和６年度着工、７年度での完成予定との説明がありました。

2　朝日ヶ丘地区旧長池導水路の維持管理について

この水路は、朝日ヶ丘自治会上部の山裾にあり、長池への用水供給の役割を終えた後も山から流れ出る水を御所沢川へ排出する重要な役目を果たしている。地域にとっては、まさに「頭の上を流れる川」、安全対策が必要不可欠である。加えて水路の上段で、太陽光発電施設建設に伴う大規模な林地開発が行われ、大雨時の水対策、安全確保等が心配、不安が増大している。

位置図（水路の流れ及び危険箇所）



上田市諏訪形1160-2 JA城下店2F　電話：0268-75-0152 FAX：0268-75-0337 E-mail：mirai_k@jade.plala.or.jp

朝日ヶ丘自治会では防災の観点から土砂上げ、草刈り等の維持管理を行ってきたが、特に御所沢川へ向かう流末約130mの間は急傾斜、管理道路もないことから作業には極めて危険な状況にある。また、土砂の流入が多く度々溢水している現状にあり、自治会が対応すべき範囲を超えている。こうしたことから、この区間については市直轄での管理及び破損箇所の修繕等の整備を要望する。

〈佐藤都市建設部長の発言〉

太陽光発電施設の関係で、現地は踏査している。要望箇所について改めて確認の上、検討したい。

３　県道上田塩川線（金窓寺川関連）の防災対策について

県道上田塩川線、金窓寺川をボックスカルバートで横断している箇所については、令和元年の東日本台風により巨石等が内部に詰まり、溢れ出した土砂が道路上に堆積し、交通に支障が生じた。

令和５年夏に真田地区で発生した土砂災害は、ボックスカルバート内に石等が詰まったことが被害を大きくしたことも聞いている。昨今の異常気象による豪雨災害の多発、上田地域でも経験したことがない豪雨災害が発生した。

真田地区での災害実例を見るにつけても、当箇所への住民不安感は増す状況にある。再び交通に支障がないよう防災対策を講じるよう要望する。

〈佐藤都市建設部長の発言〉

真田地区の災害状況を見て、同様の危険があると思う。県道との関連もあるので、まずは市として県建設事務所と協議をし、対応を検討したい。

まとめとして、土屋市長からは、「城下まちづくり未来会議からの要望を受け止め、対応したい」旨のコメントをいただきました。回答は、本年４月頃の予定です。

太陽光発電施設についての動向

- 上田市の条例では、施設について当初の設計に変更が生じた場合は、地元説明会を行うことが定められているが、それが履行されない中で、業者側は、昨年10月23日から売電を始めました。
- 城下自治連等においては、これまで幾度となく説明会開催の申し入れをすると共に、市に対し業者への行政指導を行うよう要望してまいりましたが、進展のない状況にあります。
- こうしたことから、昨年12月25日に城下地区太陽光発電施設会議を開催し、今後の対応について協議をしました。
- 会議においては、市に対し、業者側の対応が極めて不誠実なことから、国の資源エネルギー庁へ状況報告を行うよう求めることを総意で決定しました。
- その後、年が改まり１月23日、業者側から市に対し設計士変更の手続きを行い、地元説明会の開催をしたい旨の意向が示されました。
- 順調に手続きが進めば、２月末までに地元説明会が開催される見込みです。